いう。主催は工業部会・ 間探しを促すのも狙いと

などの話をしたい参加者 したい参加者向け 地域・社会・生活の話を

趣味

などのテーブルに

分けられていた。

参加者たちは、

それぞ

KIZUNAプロジェク

甲斐部会長は「さまざ



地が、 が入居する新しい工業団 異業種の中小企業7社

地が完成。 開発を進めていた工業団 組合「SIP (シップ) 座間インフィニティ」 7社で構成される協同 入居企業は3

月までに順次稼働してい

座間市内で稼働す 模原、 地域産業の活性化にもつ 産自動車・社員寮などの 承認している。 用しており、県が計画を ながると期待される。 小企業高度化資金」を活 同市栗原にあった日 大和からも近く、 が立地するの 現場は相

を構築。 後は、 チャンスを模索する。 進出が目立っている。 (記事提供・

参加無料。

異業種企業7社が

模で、 円としている。

入居企業は市外からの 総事業費は約34億 生産能力を拡大し 今

つつ、団地内の協力体制 新たなビジネス かながわ

SIPは、融資制度 中

田裕之氏が講師を務

50万人の会 7年間で1

000平方は以上と大規

申し込み、問い合わせは どを手掛けたほか、 員を突破した中高年女性 経営支援課042 (74 参加した。 などの新規事業開発にも ットした。らくらくホン」 向けフィッ トネス「カー 200店舗、 定員40人。 村田氏は、 のコンサルタントな

流会を開催するのは初めてという。工業部会に所属する異業種41社が参加。 互いの情報交換を通じて、ビジネスチャンスを探っていた。 会館 (相模原市中央区中央)で「会員交流大会」を開いた。部会単独で交 工会議所・工業部会 (甲斐美利部会長= 向洋技研社長) は17日、

「連携・交流しませんか」

といった目的を記入

さ

自社PRなども書き

添えられていた。

気自動車 (EV)の実用

経済新聞社)

(記事提供・

かながわ

航続距離を延ばした電

化を進めている工業部会

最新動向を解説シニアビジネス

25日セミナー

っています (発注)」

きます (受注)」や「困

トには「これがで

流シートを配布。 記入さ 行き、交流を深めていた。 たシートを壁に貼り付 また、参加者全員に交 交流相手が探せるよ がる」と話していた。 で、工業人の新たなネッ も継続的にやっていきた 隆仁委員長は「これから 同プロジェクトの那須 参加者も増えること クづくりにもつな

たことがない工業系企業

経営のヒントもつかんで

介した。交流を通じて、

いただきたい」とあいさ

部会活動などに参加し

などを対象に企画した。

ビジネスの話だけでな

会場は、

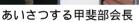
ビジネスの

地元の工業人たちが、

た趣味でも交流できる仲

ゴルフや釣りといっ

話をしたい参加者向け



ていく。 造EVの製作をマニュア 販を検討する。 ムは、 所属10社のコンソーシア 国的にも珍しいとしてお る。こうした試みは、 販売することを想定す ル化。DVDなどにして 電気自動車は、 既存車両を活用して改 EVの普及につなげ 製作ノウハウの外 回の 全

っている。短く、普及への課題とな 充電で走れる航続距離が 模原市中央区中央) で経分まで、市立産業会館(相 る。さらには、中小企業 どについて専門家が語 ニアマーケットの特徴な ビジネスの最新動向やシ ネス最新動向」を開く。 営セミナー「 シニアビジ 日の午後2時~ セミナーでは、シニア 相模原商工会議所は 同3時

する。 大学特任教授も務める村 京都港区)代表で、東北 における成功事例も紹介 村田アソシエイツ (東

同コンソーシアムは、

美しい時代へ―― 東急グループ

相模原の工業人たちに垣根を越えた交流を持ってもらおうと、 (発行) 相模原商工会議所工業部会 かながわ経済新聞社 代表:千葉龍太 〒 252-0239 相模原市中央区中央3-12-3 TEL: 042 (851) 2021 FAX: 042 (851) 3532 随時発行です。工業部会の 定期活動をご紹介します。 印刷しご自由にお読み下され 市立産業 相模原商



参加企業が記入した交流シート

同装置を組み込んだ電気

に乗り出している。 自動車「REV」の開発

車体は、スズキ「キャ

クステンダー」

に着目。

距離延長装置「レンジエ 題を解決しようと、航続 数年前から、こうした課

ノウハウ外販

航続距離を延長

の普及につなげると スチャンスの創出とEV 販も検討。 新たなビジネ で供給する仕組み。 がゼロになると、 台を設置。 蓄電池の残量 して、製作ノウハウの外 今回、次のステップと 後部に発電装置計 発電機

ジン部分に駆動用モータ リイ」をベースに、エン

Town Value-up Management

街の新たな価値創造をめざして

街並の美観向」

定住人口の増加

Town Value-up Management

来街者の増加

資産価値の向上

